

被災した若者のキャリア支援

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
今泉理絵 氏

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター
こども・若者支援部門 若者キャリア支援担当 特任助教



2 011年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、大きな被害を受けた地域の若者は、その進路選択と将来展望に大きな影響を受けることとなった。進学を希望する生徒にとっては、家計の問題や落ち着いて受験勉強に取り組める環境が失われた面があった。就職を希望する生徒や、すでに就職していた若者にとっても、それまで生活していた地元での将来設計に大きな変更を余儀なくされることになった。特に、地場産業や地域の雇用の受け皿が失われてしまったことは若者だけではなく、多くの人々にとって大きな衝撃であった。働き方に変更が生じたり、生活の場を変えたり、その生活を支える多くの産業と雇用の動向にも変化が生じた。それは、直接被災した地域だけではなく、福島県内全体に影響が及ぶ問題でもあった。

震災前後の福島県内の高校生の進路を比較する調査を行ったところ、サテライト校(本校舎が避難区域に指定された場所に所在するため、離れた地域に仮に設置された校舎)では、2010(平成22)年度の進学率44.80%、就職率45.42%に対し、2013(平成25)年度は進学率64.12%、就職率29.42%となり進学率が増えた。地元企業とのつながりが薄まり希望する就職先が見つからなかったことや、都市部に避難したことなどで大学や専門学校が通学圏内になり、選択肢が広がったことなどが背景にあると見られている。サテライト校を除く高校では、2010年度と2013年度を比べると進学率がやや低下したものの、大きな変化はなかつ

た。ただ、震災直後の混乱の中で十分に検討できないまま就職し、早期離職した

若者の再就職支援など、課題が指摘されている。

若者たちにはこの困難を乗り越え、自分を見失うことなく、柔軟でよりたくましい将来像を描いていくことが期待される。新しい土地での暮らしや出会いが困難やマイナスなことばかりではなく、若者たちの可能性を拓ける機会ととらえることもできる。「キャリア」とは、進学や就職をゴールとした出口中心の一時的で直接的なものではない。本来は、進路選択に必要な自信と積極的な態度を、学校をはじめ家庭や地域の日常生活を通じて身に付けていくことである。それは「自立」と「自律」に向けた若者の成長発達過程へのかかわりそのものにほかならない。

そして、地域の復興・活性化のためには、担い手となる若者にとって魅力ある産業・雇用の創出も重要である。若者の未来が明るいものでなくては真の復興を望むことはできない。2015年の高校生への調査では、福島県発展を期待している生徒は50%前後であり、地域の動きやこれからの職業生活がイメージしにくい等の回答も多く見られた。また、進学希望者は県外を、就職希望者は地元を希望する傾向が見られた。

今後は、若者の流出防止策やU・Iターンを促し、若者が安心して福島で生活できるようにすることを期待したい。